

手づくり楽器たち

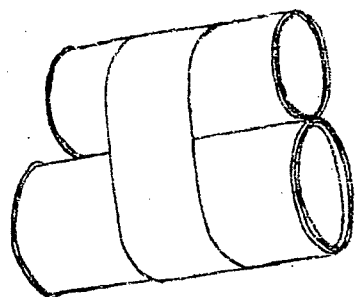
たとえば・・・



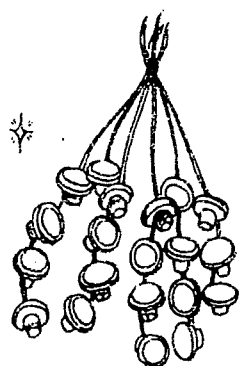
マリンカン



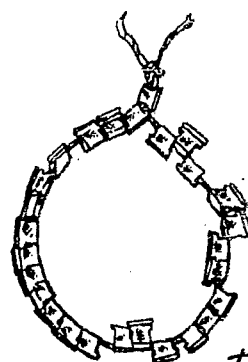
〈カンカラ〉



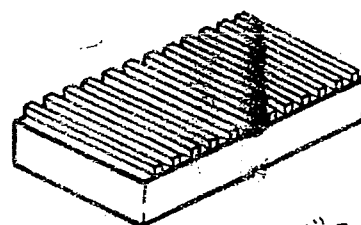
キンコン



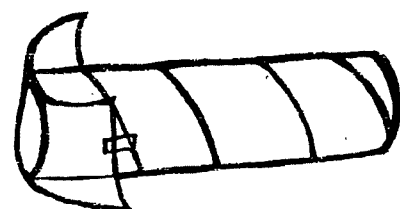
シュレイベル



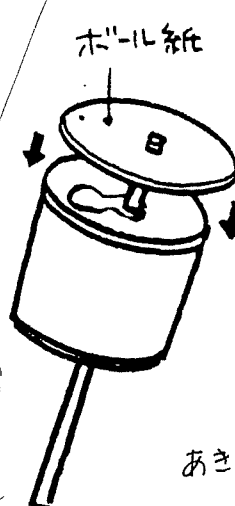
ガチャリン



箱とヤリばしのギロ

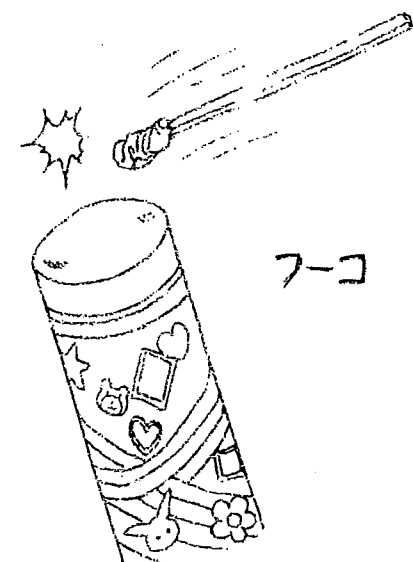


カズー

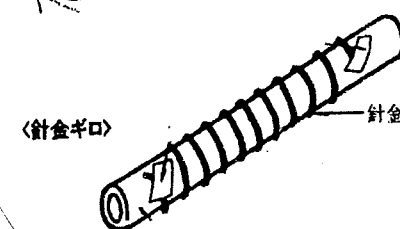


ボール紙

あき缶のマウス



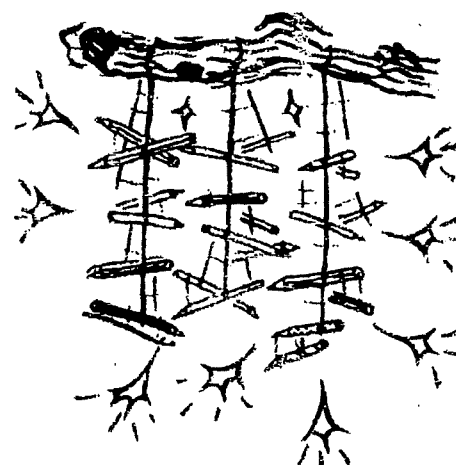
フーコ



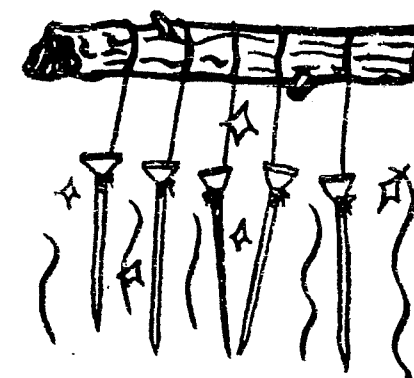
〈針金ギロ〉

針金を巻く

キズをつける



ビキビキ



くぎチャイム

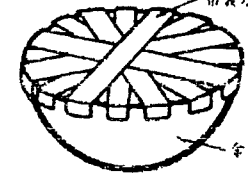
植木鉢 ポンコ

ポツポー

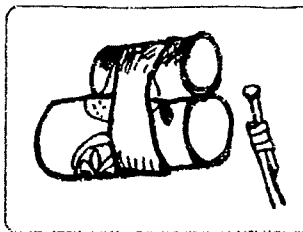
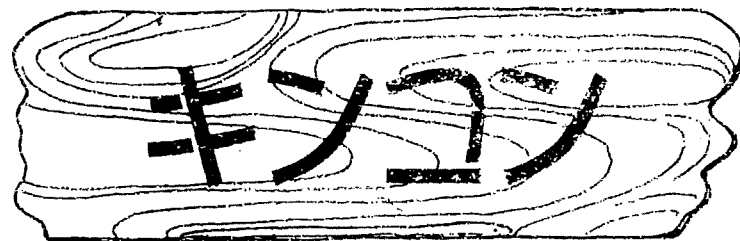


〈サラダボールドラム〉

糸状ガムテープ



金属製サラダボール



キンキンコンコキンキンコンコン！ ワーイ、ごきげん！
思わず踊り出したくなるような音がします。踊りながら叩いちゃえ！



※底が平らで白くなっている、スチール製の空き缶。大きさが違うものを二つ（底が平らで白いものはつなぎ目がないので、とてもよく響くのです）



- ①図1のように空き缶二つを白い底の方を上にしてガムテープなどでとめる。
- ②マレットはわりばしの先にくぎを頭の方を上にして図2のようにセロハンテープでとめる。

図1

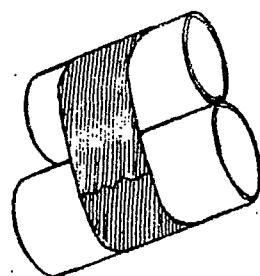
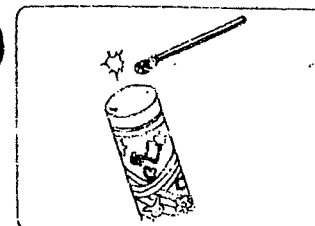
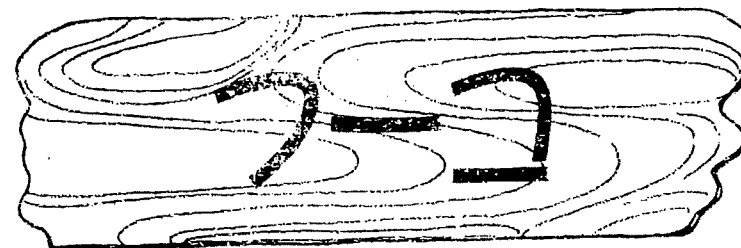
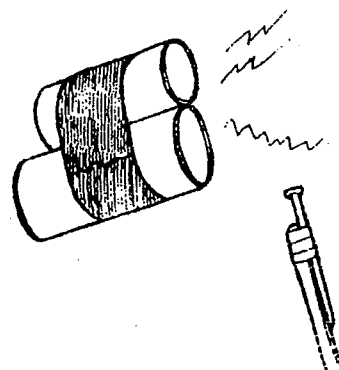
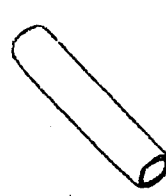
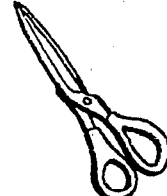


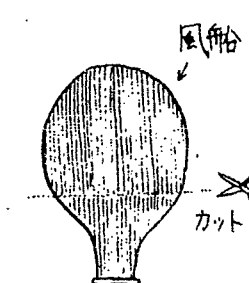
図2



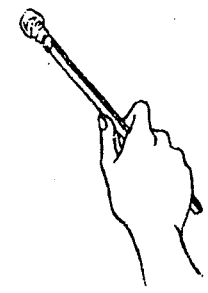
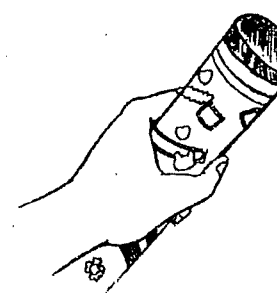
軽くて持ち運びに便利。簡単にできてデザインも楽しめる！
小さなグループで使うのにもピッタリのたいこです。



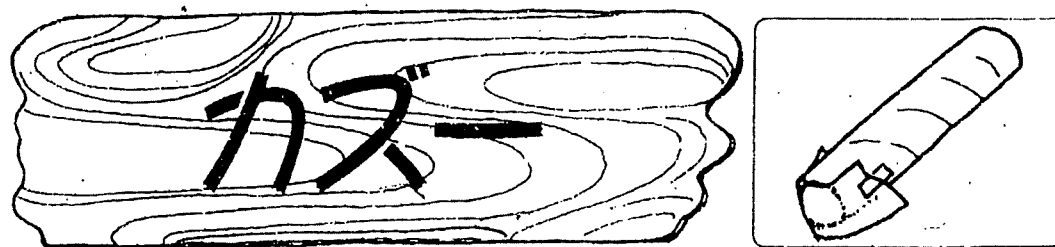
※風船は、水風船のように小さいものは不可



- ♪風船の張り具合で音が違ってきます。
- ♪胴部分にもようを描いたり貼ったりしましょう。



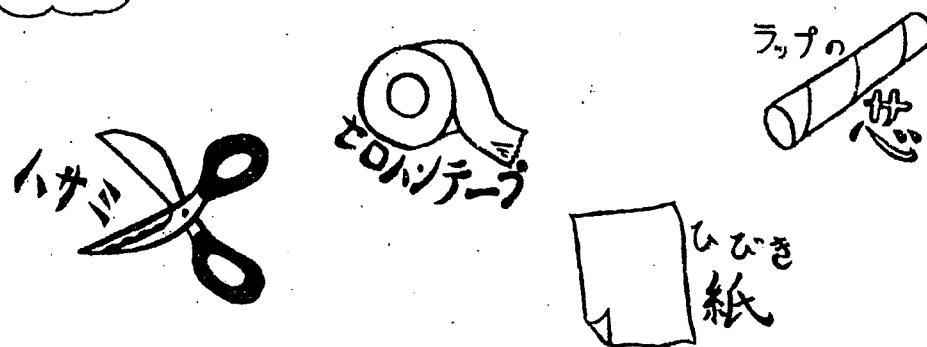
♪曲の伴奏にもよく合います。音が小さいので少人数のアンサンブルに適します。



声の不思議に気づく簡単で楽しい楽器

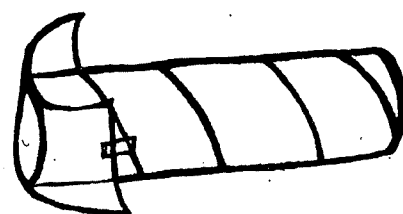
用意
するもの

※トイレットペーパーの芯は口に当てるとベロベロになるので不向きです。とにかく丈夫な筒ならOKです。長い筒も面白いですよ
※ひびき紙は印刷機用の原紙やパラフィン紙がピッタリです



作り方

ラップの芯の口より少し大きく切ったひびき紙を2カ所、テープでとめるだけ。



※ぐるりとテープでとめると響きません



※口に当てて声を出します。(息を吹き込むだけでは音は出ません)

※響きのよい声を見つけます。

※吹き口のところだけ除いて、シールを貼ったり、絵を描いたりしてオリジナル・マイ・カズーをつくってみましょう。

※吹き口側の少し下に穴を開け、ひもを通して首からさげられるようにすると持ち運び便利な楽器になります。



※ラップの芯でのぞこう

広く見えていた景色も小さな丸い視野になるとまた新しい世界が広がります。

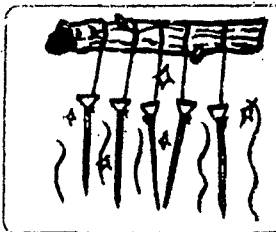
※ラップの芯で聴こう

芯に耳を当て、目を閉じると、風の音や波の音が聴こえます。

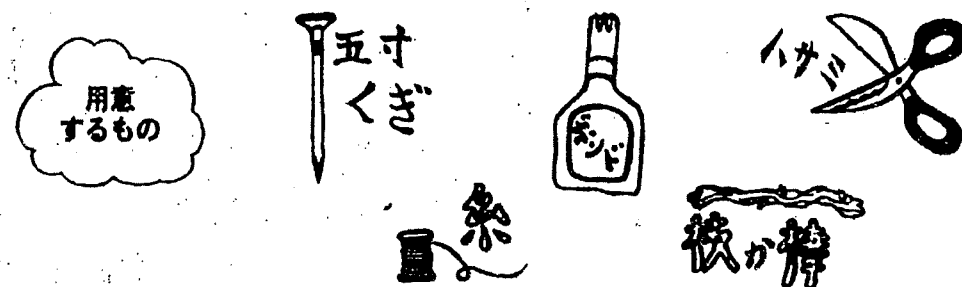
耳に当てた芯に手でふたをして開けたり閉じたりしてみましょう。不思議な音の世界の始まり始まり。

※ラップの芯からどんな音が？

まずラップの芯で好きにあそびます。叩いたり、のぞいたり、擦ったり、自由にさせます。そして一人が一つ探した音を出しながら音まわしをします。同じ音でもOK。しーんとしたら始めましょう(『音まわし』はP. 104参照)。

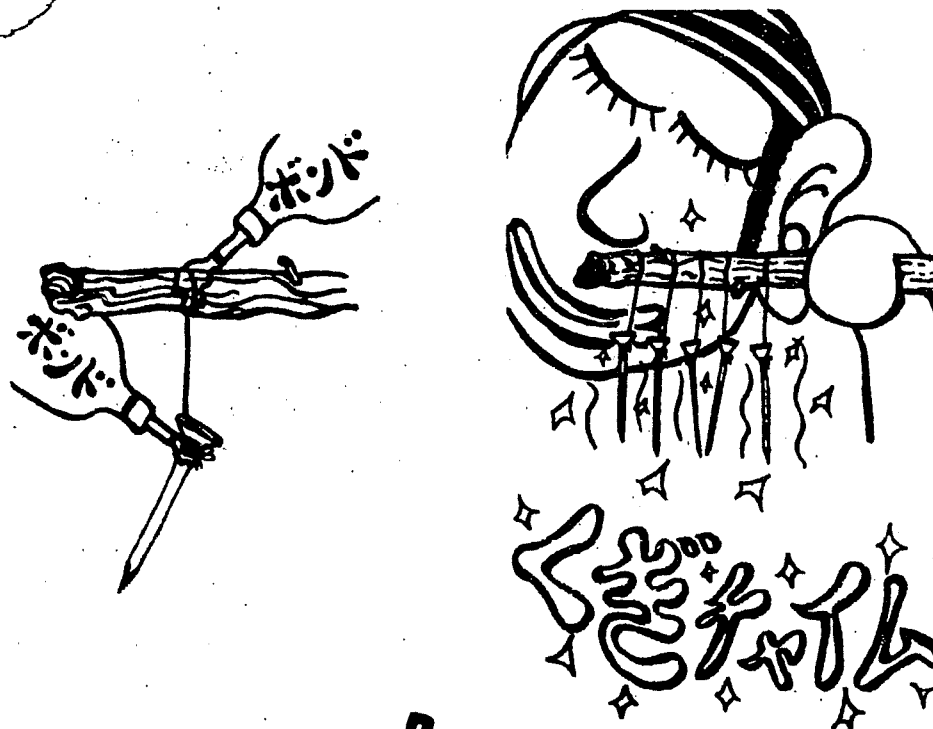


手づくり楽器の定番。でも実際につくったことがありますか？
姿からは想像できないほど繊細で美しい響きをもっています。

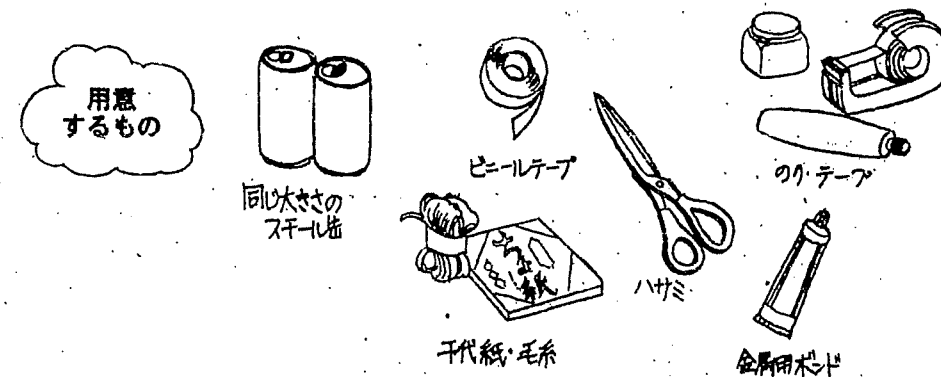


作り方

- ①くぎに糸を結び棒にさげる。長さも本数も自由。
- ②糸の結び目にボンドをつける。
(太い固い糸より細い糸の方が音がきれいかな)



水の流れる音は不思議と人の心を癒してくれます。私たち人間をはじめ、
生命の誕生はすべて海の中からだそうですし、泡のはじける音を聴くと、
脳からα波が出るといいます。
その音を聴いてみようと考えた楽器がマリンカンです。



作り方

- ①スチール缶のプルタブを取って、片方に水を飲み口ギリギリまでたっぷり入れて周りについた水をふき取る。(図1)
- ②水の入っていない缶を、飲み口同士を合わせるようにして上からかぶせる。(図2)

図1

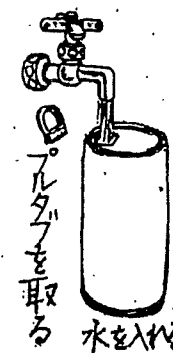
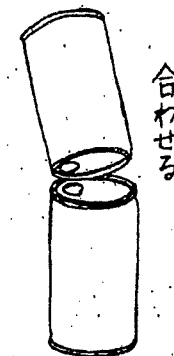


図2

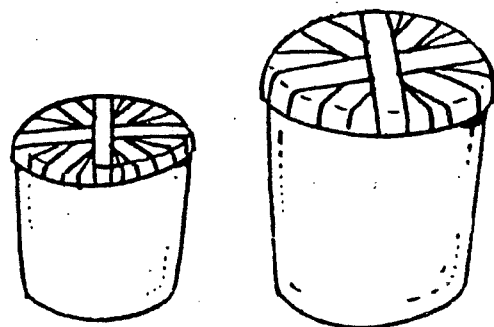


3 たたいて音を出す手づくり楽器

たたいて音を出す楽器には、タイコがあります。この種類の楽器は世界中に分布し、それぞれ民族特有のタイコ文化を作りあげているといえます。

まずここでは、ポリバケツにガムテープを貼り、アッという間にできてしまうタイコを作りましょう。素材として大きなバケツを使えば低い音のタイコができ、逆に小さいものならば音は高くなっていきます。

《バケツのタイコ》

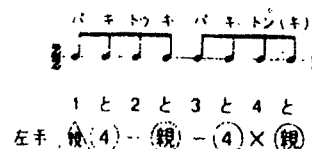
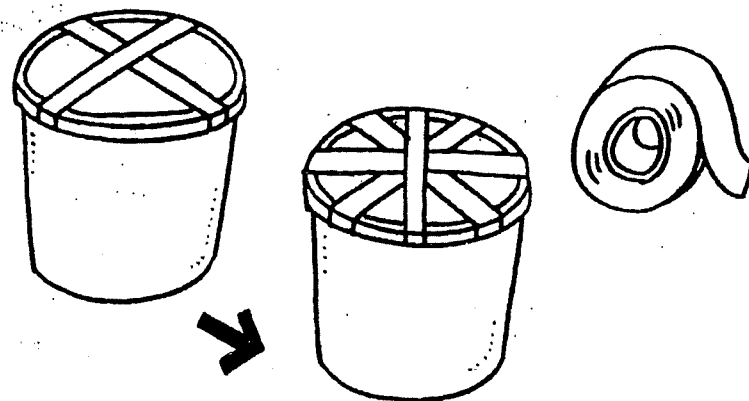


《材料》

糸入りガムテープ ポリバケツ

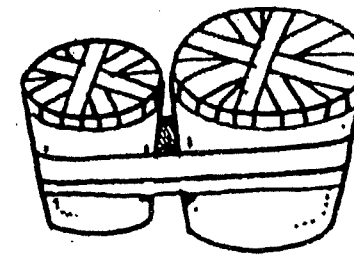
《作り方》

糸の織り込まれた丈夫なガムテープを使い、図のように1本ずつピンとのばしながら、対角線上に貼っていく。たたく棒はスリコギなどなんでもよい。



△—おさえる
×—おさえていない
— たたいたあと、そのまま手がの
たたく
おやゆひ
おやゆひ以外の
のこり4本
おやゆひ

《植木鉢のボンゴ》



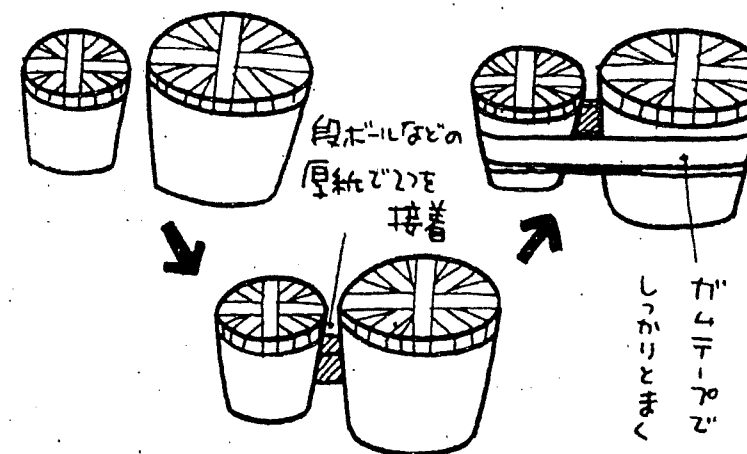
プラスチック製の植木鉢を使って、ボンゴも作ってみましょう。前に紹介した大きなポリバケツのタイコと、植木鉢のボンゴでアンサンブルをして

《材料》

糸入りガムテープ 段ボール (発泡スチロールでもよい)
直径13cmと15cm位のプラスチックの植木鉢2個

《作り方》

1. バケツのタイコと同様に、すき間なくガムテープをピンと貼る。
2. 2つのタイコの間に段ボールなどを折って作ったものをはさみ接着する。
3. さらにガムテープでまいて、2つのタイコが動かないようにする。

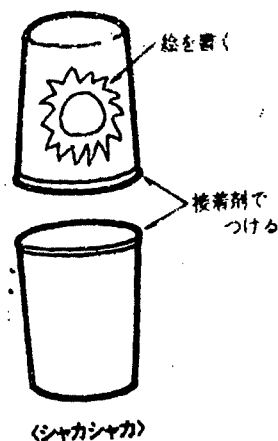


《ボンゴの演奏方法》

足の間に楽器をはさんで、左手は親指と手、右手は全体(親指は使わない)で譜例にしたがってゆっくりと練習してください。

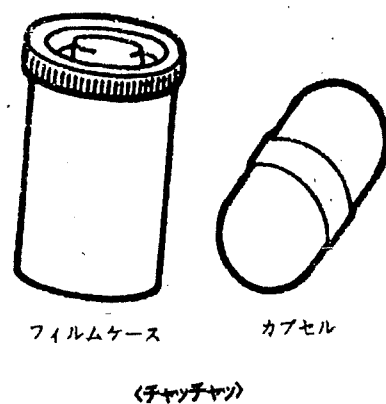
■シャカシャカ

プラスチックの容器やアルミカンに砂やビーズ、米を入れて振ります。



■チャツチャツ

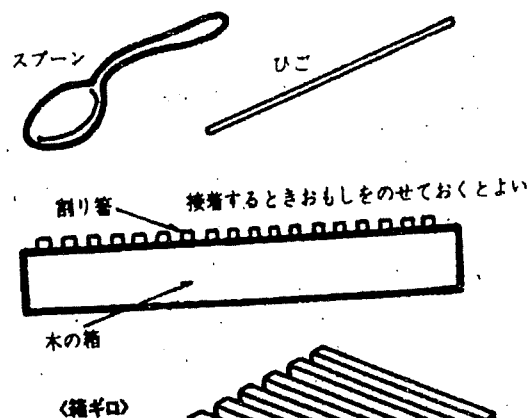
フィルムのケースやおもちゃのカプセルなどにビーズを入れて振ります。



こする

■ハコギロ

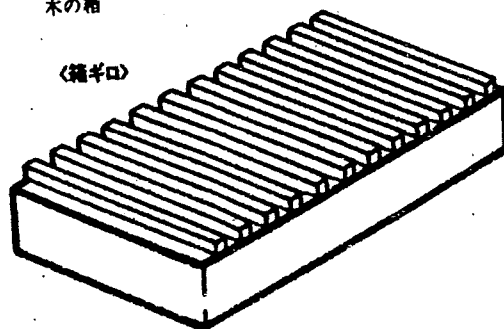
木の箱（板でも良い）に割箸を並べ、木工用ボンドで貼りつけるだけで出来上がりです。割箸の間隔は5ミリ位にします。本来のギロのように高い音を出したいときは、竹ひごのような細かいものでこすれば良いし、スプーン丸くなっているところできると、ゴロゴロと良く響く大きな音がします。これもとても楽しいものです。



■クサリギロ

目の細かいワサリ（植木鉢をつるすときに使うワサリなど）を図のように張って、ボールペンや金属製のエンピツキャップなどの硬いものでこすると、タライが共鳴体となって良く響きます。

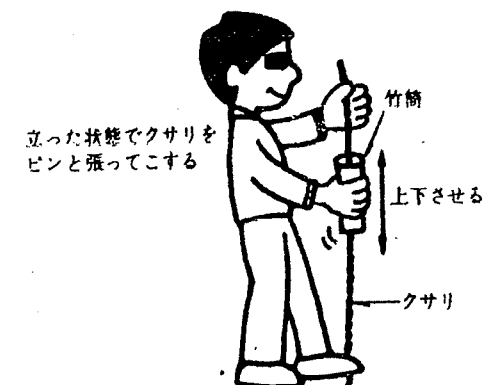
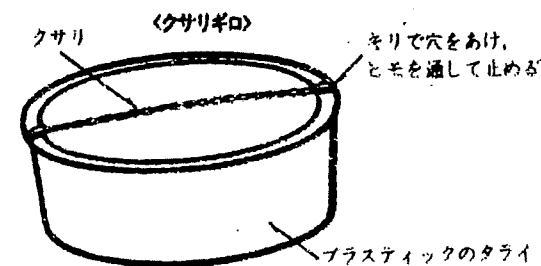
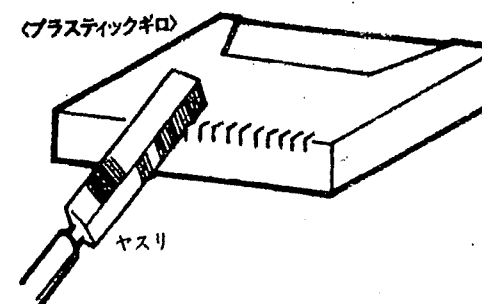
タライを使わなくても、少し長めのワサリ（犬のワサリなど）に竹筒を通し、一方を足で踏み、一方を手で持って竹を上下に動かしてこすりま



す。アクションが大きいので楽しく演奏できます。

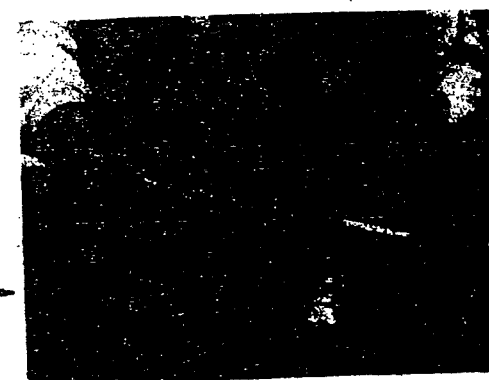
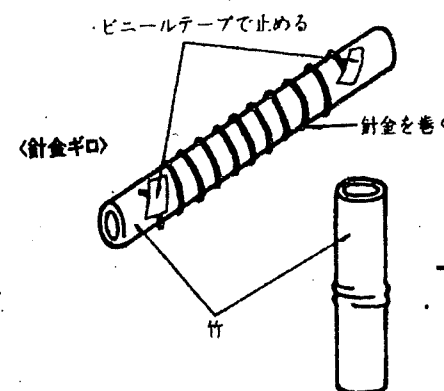
■プラスチックギロ

カセットテープのケースの角に、ヤスリで傷をつけたものも良い音を出します。こするものは竹ひごのように細かくて硬いものが良いでしょう。



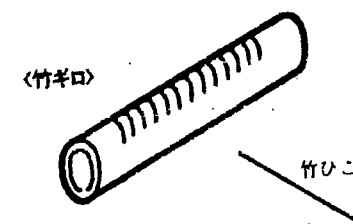
■針金ギロ

直径2〜3センチの竹に針金を巻きつけて、両端をビニールテープで止めます。それを同じような太さの竹でこすりま



■竹ギロ

竹にノコギリで切り込みを入れます。このとき切り込みは、竹の直径の4分の1程入れます。竹は太めのものが良いでしょう。



竹のマラカス

竹のマラカスも、素朴でよい音がします。竹は、日本中どこにでもある植物ですので、ぜひ素材として使ってみましょう。

〈材料〉

竹の筒2本（直径5cm、長さ10cmを目安に予めノコギリで切っておく）

棒（余った竹を削って作る。菜箸でもよい） ボール紙

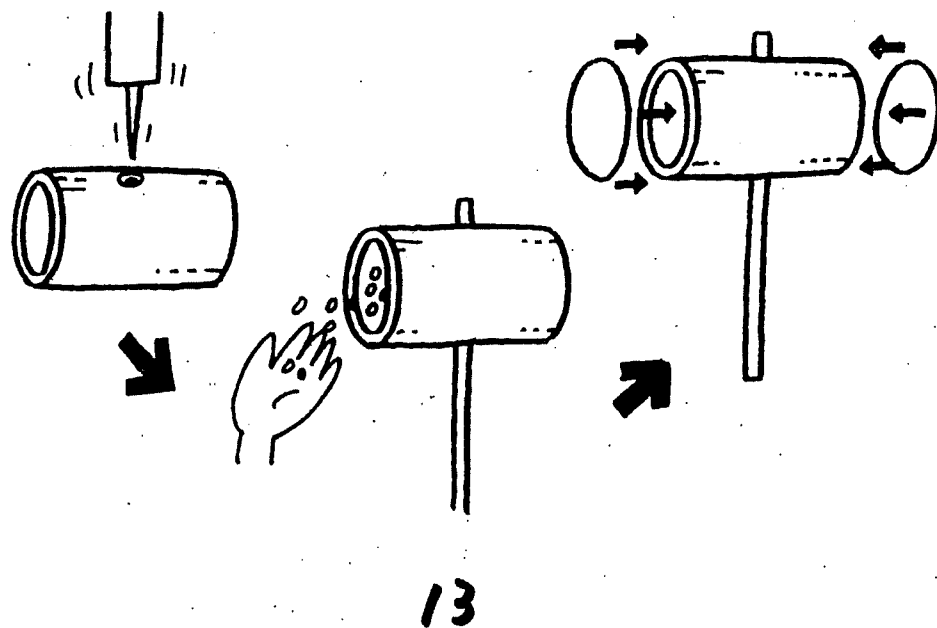
中に入れる小豆・お米・ビーズなど

〈道具〉

キリまたはドリル ボンド 紙ヤスリ 透明ラッカー ハサミ

〈作り方〉

1. 竹の筒の真ん中にキリやドリルで柄になる棒の通る穴をあける。
2. 棒を穴に通してから接着部分にボンドをつけて固定する。
3. 図のように竹の直径に合わせた側板をボール紙で作り、筒の中にお米などを入してからボンドで貼りつける。
4. 竹の表面を紙ヤスリでみがいてから、透明ラッカーなどで仕上げる。



あき缶のマラカス

ビールやジュースのあき缶でマラカスを作しましょう。あき缶のマラカスは、音が大変よく響くのが特徴です。この工作のポイントは、柄をどうやって取りつけるかということにあります。柄には、お箸より太めの菜箸を利用するとうまくいきます。

〈材料〉

あき缶2個（大きさとしてはビールのミニ缶が最適です） 菜箸

中に入れる材料として小豆・お米・ビーズなど ボール紙

〈道具〉

ハサミ、太めの釘 カナヅチ ボンド

〈作り方〉

1. 缶は十分に乾燥させる。
2. 缶の底の中心に釘などで穴をあける。
3. 中にお米などを適量（振りながら調整）入れて棒を底から差し込む。
4. 缶の飲み口にピッタリはめ込めるフタをボール紙で作り、ボンドで貼る。
5. 好きな模様や色を塗って仕上げる。

